令和５年度第１回大阪府立図書館指定管理者評価委員会議事概要

日　　時：令和５年８月８日（火）15時00分～16時15分

場　　所：大阪府立中之島図書館　別館２階多目的スペース３

出席委員：大久保委員長、関野委員、西村委員、帆足委員

１　開会

２　協議事項

・図書館指定管理運営業務の評価方法について

・令和５年度府立中之島図書館及び府立中央図書館指定管理運営業務の評価について

《質疑応答》

委　員：中之島図書館の多目的スペースを活用した講座・イベントについて、令和５年度の目標が44回とあるが、これは提案書に書いてある数字ということか。

令和４年度の実施回数は、この目標値と比較すると桁が違う。この差はどこからきているのか。

令和４年度がこのようなたくさんの実施回数になったのは、コロナ禍でも頑張ろうと思って実施されたのか。

事務局：積極的に事業をやっていただいた。これまで中之島図書館をあまり利用されなかったような若年層、子どもなどを呼び込むためのイベントなどもたくさん企画している。

委　員：目標的には、表面どおり頑張ってイベントを企画して問題ないなと思ってしまうのはよくない。基準についてどうなのか、ということを提案する。

44回というのは目標値を提案した時と、現時点での感覚の差はあるか。令和４年度実績値は、今年度目標値の３倍くらいの実績になっている。目標値に設定して意味があるのかどうか、意見を聞きたい。

事務局：昨年度は、人数制限もまだ残っていた。実施回数を増やす、入館者を呼び込む企画をしていたと聞いている。コロナがあり、目標値を提案された時点と現時点では状況が大きく変わっているため、この目標値とした。

委　員：改めて目標値を立てるのは難しいことが理解できたので、これで大丈夫かと思う。

事務局：コロナ禍であることなどを加味しながら開催できているか、また、参加者についてもどれだけ集客できているのか、というところが評価する部分かと思っている。

委　員：中之島図書館の入館者数目標値について、令和４年度実績値より少ないことに違和感がある。今年度は、コロナの影響が少なくなっているにもかかわらず、昨年度実績値より少ない目標値はどうか。工事等の影響があるなら仕方がない。

委員長：入館者数は提案時に目標値がなかったため、過去５年間実績のうち最高値最低値を除いた３年の数値を平均している。

委　員：その際、平成30年度と令和４年度を実績値比較した比率をかけると説明があった。

事務局：中之島図書館の場合、入館者数にその割合をかけるとさらと低い数字になるため、比率をかけてはいない。

目標値の基本的な考え方は、令和３年度1回目の評価委員会時に定めていただいた「提案書に数字がないものは直近5年間のうちの最高値と最低値を除いた３年の平均値」とした。

委　員：その場合、コロナの影響を受けていない年度は１年だけになってしまう。

事務局：お見込みのとおり。コロナの影響で少なくなったこれらの実績値が、来年度以降の目標値の基準になる。

委員長：コロナにより、考えられないような来館者数の減少、休館等の制限があった。実績値をみて目標値を上げていくこともできるが、コロナのような突発的な事故も起こりうる。高すぎる数値、低すぎる数値といった「外れ値」を除いた数値で目標値を算出するということで設定をしているところ。

委　員：指定管理開始時のルールとしては正しいと思うが、最高値を除外すると外れ値が３年あり、外れ値の方が多い状態。一定ルールが決まっているのでこのままでいいが、違和感がある。

委員長：今後目標を大きく超えるように取り組んでいただくが、目標値としては、現在の数値で設定したいと思う。

委　員：考え方は理解できるが、コロナの影響が少なくなると思われる今年度の目標値が、昨年度実績値より少ないのは気になる。

昨年度の数値を最低限クリアする数値とした場合、指定管理者も昨年度頑張ってこられているので、なかなか言いにくいところ。

委員長：今年度の目標値は、平成30年度から令和４年度の過去５年の実績の数値から一番高い平成30年度と一番低い令和３年度の数字を除いた３年の平均で算出している。来年度は令和元年度から令和5年度の数値で目標値を算出する。今後はコロナの影響がほとんどなくなってくるため、高い数字ばかりで平均となってくることが予想されるが、下がる可能性もある。

来年度の外れ値を見て、またご意見をいただきたい。

当初に決めたこのルールを見直すことはあってもよいのか。

事務局：全く駄目だということではないとは思う。ただ、目標値を大幅に上回る実績値となったため、急にその数値を目標値にするとなると、指定管理者が「無理をしてでも頑張らなければならない」状態になることが予想される。毎年開催する１回目の評価委員会で、また検討させていただきたいと思う。

委員長：制度的に変更してはならないわけではないが、指定管理者、図書館側からすると、現評価委員で１回目に定めた目標値設定の考え方がその都度変わってしまうことになる。評価委員会で、当初に立てたルールを最大限に踏襲していき、よほどのことがあればまたご意見をいただきたい。

委　員：再度の確認。定量評価にて、イベントの回数は計画通り実施することが可能、人数については実績比率をかける、中之島図書館の場合82％かけることになったが、多目的等文化事業の参加人数、館全体のイベントの参加人数に実績比率をかけない理由は。

事務局：中之島図書館の多目的等文化事業、館全体イベントの参加人数に実績比率をかけると、過去実績に比べてとても低い目標値になってしまうため、提案書に記載の目標値のままにしている。

ガイドツアーはコロナを考慮されている方の申込みが影響している可能性もあるため、実績比率をかけている。

委　員：中央図書館の駐車場について、駐車場利用台数は３年平均値となっているが、駐車場収入額は提案書に記載の数値のままになっていることに違和感がある。

事務局：提案書に目標値の記載があった場合は、その数値を目標値とするとなっている。駐車場利用台数は提案書に目標値の記載がなかったため、直近5年間のうちの最高値と最低値を除いた３年の平均値を目標値としている。

駐車場収入額については、提案書に記載のあった700万円を当初より目標値としている。

委　員：令和４年度は980万円と達成している。一般的に台数と収入は比例するため、駐車場収入額も３年平均で目標値設定するといいのではないか。令和４年度に980万円の収入実績があるのに、なぜ低い700万円を目標値にするのか。提案時の目標値を達成しているのに、継続してその低い目標値を使うのはなぜか。実績比率をかけると低い目標値になる、というのとは意味が違うと思う。

委員長：指定管理者応募の際、指定管理期間内で立てた目標値を提案書に記載する。

その時の中央図書館の駐車場収入額が年間700万円で提案され、選定委員会時に、この金額を下回ることなく上回っていく運営をするという提案をされた。実績を見ると、たまたま令和２年度は至らなかった状況。令和３・４年度が急に増えているのは、コロナは関係なく、周辺状況が影響していると記憶している。

事務局：近くにあった商業施設がなくなり、一般利用の方の台数が極端に増えた状況であった。そのため、令和２年度と令和３年度の駐車場収入額は大きな開きが出ている。また、料金体系を見直したことも影響していると思われる。令和３年度から４年度にかけて、料金体系の変更を受けて利用料金収入が減っている。台数の減少以上に料金収入が減っているのはその料金体系を見直したことが原因であると考えている。

委　員：駐車場収入額について、提案書に書かれている数値を目標値にするということは理解できるが、目標値が記載されていないから、３年平均値を目標値とするということがおかしい。駐車場利用台数に対して駐車場収入額も設定しないといけないのではないか。料金収入額と台数がかみ合ってない。駐車場収入額700万円を目標値にするのであれば、目標台数は700万円を台数で割り出す計算が必要になると思う。

事務局：料金体系を見直したこともあり、単純に１台平均の利用額を算出しにくい状況も理解いただきたい。提案書になかった台数の部分については、その他の目標設定のように、過去３年の平均値を目標値にしたところ。単価を割り出してそこから逆算するという方法もあると思うが、料金体系を見直してからまだ１、２年であるため、それを果たして今の状況に当てはめていいのか、判断が難しいと思っている。

委　員：料金体系を見直したのは、一般利用者が増えて図書館利用者が駐車場を利用しにくい状況があったからと聞いている。その場合、駐車場利用台数が多ければ多いほどいいというわけでもないような気がし、そもそも駐車場利用台数を評価項目にどこまで入れるのか、疑問に思ったところがある。

委　員：駐車場の目標収入額を達成するための取組を評価するのに、評価項目が利用台数と収入額の２つある。この２つを評価することがおかしい。駐車場収入額700万円を超えているなら、それだけでいいと考える。目標値の提案がなかった駐車場利用台数をなぜ評価する必要があるのか。700万円を達成していれば台数は関係ない。駐車場収入額と駐車場利用台数の２つを評価するのは、おかしいと思う。

委員長：指定管理者選定時に駐車場収入額と駐車場利用台数の両方で評価するという基準になっていた。あくまで駐車場収入額を達成するための指標だけであれば、額だけでもいいのかもしれない。

個人的には駐車場収入額の達成だけでなく、地域の方に図書館の駐車場も含めて来館されているのかの、一つの指標として駐車場も見ている場合、駐車場利用台数も多くてもいいのかな、と推測する部分もある。駐車場利用台数も駐車場収入額も多い方がいい、という考え方もあるかと思う。ただ、評価票には「駐車場の目標収入額の達成のための」と書かれているので、駐車場収入額だけの評価でもいいかもしれない。

この評価委員会で駐車場利用台数をカウントしないということには、ならないと思うが。

委　員：問題なのは、一般利用者と図書館利用者の区別がされてないこと。駐車場利用台数のうち、図書館を利用した台数がわかれば良かったと思う。

事務局：図書館としても、そのデータが欲しい、わかればいろいろ活用していけると思っているところ。

委員長：数字を取ることは難しい。経費をかけてシステム化し、駐車場利用台数を確認するということも難しいと思うため、現状はこのままかと思う。

駐車場収入額のみ評価し、駐車場利用台数は評価する意味がないのではないか、ということについては、次の指定管理者選定の際にまた考えていくことで、現時点はこの項目で評価をする。

駐車場利用台数の方は、次回の公募時に検討できると良いと思う。

他に何かないか。

なければ事務局の提案に基づいて、評価委員会でも合意し、特に修正は行わないこととする。

異論なし、異議なしということで良いか。

（異議なし）

３　閉会